



2014 年度 事業計画書 予 算 書



Bangladesh BDP 協働プロジェクトの授業にて
(撮影 高橋淳子)

公益社団法人
日本キリスト教海外医療協力会

Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service
(JOCS)

目 次

1. 新年度の抱負	1
2. 2014年度計画	2
3. 海外諸活動	5
3-1 海外派遣	5
(1) バングラデシュ 山内章子ワーカー	5
(2) バングラデシュ 岩本直美ワーカー	6
(3) パキスタン 青木盛ワーカー	6
(4) タンザニア 弓野綾ワーカー	7
3-2 短期ワーカー派遣	7
3-3 研修生・奨学金支援	8
3-4 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）	13
(1) BDP 学校保健プロジェクト バングラデシュ	13
(2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト タンザニア	13
(3) 新規 カンボジア	13
4. 国内諸活動	14
4-1 国内活動全般	14
4-2 ワーカー育成活動全般	14
4-3 東日本大震災被災者支援	15
4-4 広報全般	16
4-5 募金	17
4-6 使用済み切手運動	17
4-7 JOCS 関西バザー	18
5. 運営会議	18
5-1 社員総会	18
5-2 理事会	18
5-3 委員会	18
5-4 評価	20
6. 事務局	21
7. 予算書	22
収支予算書（正味財産増減ベース）	22
収支予算書内訳表（正味財産増減ベース）	25
収支予算書総括表（資金収支ベース）	28
公益目的事業会計 収支予算書（資金収支ベース）	29
収益事業等会計 収支予算書（資金収支ベース）	32
法人会計 収支予算書（資金収支ベース）	33

1. 新年度の抱負

「平和を実現する」歩みを目指して

＜会長 小島 莊明＞

昨年度以来、JOCS は新しい次の 5 ヶ年の歩みを定めるべく、その「使命」やその名に負っている「キリスト教」の今日的意味について、長期および短期ワーカーの働きと、またプロジェクト「りとる」やアジアとアフリカの奨学生支援、さらには東日本大震災の被災地の方々に対するささやかな活動も視野に入れつつ、時には若手会員有志もまじえながら、さまざまに考え、議論し、思いを深めてまいりました。その内容につきましては、本文の「事業計画」に記されているとおりであります。JOCS の新しい歩み出しの方向性について、支援して下さる会員の皆さまとぜひ思いを分かち合い、日本の社会全体に対しても JOCS の活動の意義を普及し反映させることができるようにしていきたいと願っております。

特に、今年度は、使用済み切手運動 50 周年の年にあたります。この機会に、子どもから高齢の方々に至るまで、広範な人々が国際的な保健医療支援活動に参加していただくことができるような機会となっているという事実に注目したいと思います。一昨年の冬期募金趣意書で、いみじくも俳優の竹下景子さんが、「子ども時代の切手収集がきっかけ」で 50 年以上にわたって JOCS を支援していると記してくださっていますが、きっとこのような方々がほかにも沢山おられることと思います。このようなことから、今年度は、なんとかして切手運動を通して、日本とアジア・アフリカの子どもたちが交流するプログラムを実現できないだろうかとも考えるものです。

最後に、今は神のもとに召されたテゼのブラザー・フランクが、JOCS 創立 50 周年記念の会の折に来日され、私どもに、イスラムの人々と平和に生きる道のあることを示してくださったことを、ここに感謝とともに記したいと思います。そして、争いや諍いの絶えない今の日本と世界の現状をみると、罪の中にある私ども人間をも、「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」(マタイによる福音書 5:9) と、執り成して下さる真の「神の子」イエスのみ言葉を心に深く受け止め、アジアやアフリカをはじめ世界の各地で、貧困・飢餓・差別・虐待にあって苦しめられ小さくされている女性や子どもたちとともに、「神の子」と呼んでいただける日を待ち望みたいと思います。

2. 2014 年度計画

＜事務局長（総主事改め） 大江 浩＞

●ミレニアム開発目標（MDGs）と JOCS の使命

「2015 年までに世界の貧困の半減」を目指すミレニアム開発目標（MDGs = Millennium Development Goals）は、具体的な 8 つの達成目標があり、そのうち「目標 4：乳幼児死亡率の削減」、「目標 5：妊産婦の健康改善」、「目標 6：HIV/エイズ、マラリア、その他の疾病の蔓延防止」の 3 つが保健医療分野で、JOCS の活動領域と重なります。これらの目標達成の期限まであと 2 年に迫る中、目標達成において改善が見られるものがある反面、地域によっては進展なし、または状況悪化が見られる分野さえあります。

MDGs の重点対象は、女性と子どもたちです。JOCS が 5 ヶ年計画の焦点（重点対象）の一つとして取り組んでいるのも女性と子どもたちです（例えば、パキスタンやタンザニアの母子保健活動）。女性や子どもたちは紛争や災害の犠牲となったり、日常的にも抑圧や差別・搾取の対象となることもあります。保健医療に加えて、女性・女兒の教育や人権の保障も重要な課題です。JOCS が 2010 年に開始したバングラデシュでの学校保健教育・協働プロジェクトは、小さいのちを守り育む活動の一つであると考えます。

JOCS は、地球規模の主要・共通課題とされる MDGs に掲げられていない課題にも取り組んでいます。一つの例は、バングラデシュでの障がいのある人たちの地域に根差したリハビリテーションや知的ハンディのある人々のコミュニティを支える活動です。私たちの使命は、「貧しくされ、虐げられ、差別され、必要な助けから遠ざけられている人々と共に生きる」ことであり、そのために祈り、働きます。同時に私たちは、障がいのある人々と共に生きる活動を通して、その恵みや平和について学ぶ機会が与えられています。

●5 ヶ年計画 2013（2013－17 年度）の推進～ネクステ会議を受けて

JOCS は、第 5 回海外保健医療協力者会議（Next Step＝ネクステ会議）の覚書（提言）を受けて、昨年 1 年間をかけて 3 つの作業を行いました。第 1 に 4 つの主要議題＜①使命、②国内活動、③クリスチャニティ、④保健医療協力＞の項目毎の議論、第 2 に 5 ヶ年計画 2013 アクションプランの策定、第 3 に現「基本方針と実施要綱」の見直しと新「基本方針」の策定です。第 1 の作業（4 つの項目の議論）は、5 ヶ年計画 2013 に反映され、動き始めています。

5 ヶ年計画 2013 の基本方針の一つ目の＜JOCS の目指す世界＞を、「すべての人々の健康といのちが守られる世界」としました。設立 54 年目を迎える JOCS は、新しい 50 年に向けてスタートした今、時代の要請や激しい社会変化の潮流に応え、変えるべきものと変えてはならぬものを見極めるべき時と捉えています。組織・事業全体の問い直しの契機がネクステ会議でした。その第 1 ステップが 5 ヶ年計画 2013 であり、その推進のため、新しい事務局体制や職員の能力強化、そして委員会改革などの組織改革を行って

きます。そのことが、使命の実現、すなわち活動の核となる人々の健康改善に寄与するものと考えます。JOCS は国内外の草の根の現場で、人々が支え合い助け合うことを通して、共に生きる物語に出会います。その一つひとつの積み重ねが、「みんなで生きる」世界への道のりであると信じます。

●被災地の苦難にある人々と共に歩む

東日本大震災、あの悲劇の日から今年で 3 度目の 3.11 を迎えました。JOCS は、復興がままならず、今も苦難にある人々の歩みに寄り添い続けたいと思います。

JOCS は、2014 年度も地元の支援団体に協力し、岩手県釜石市・福島県の地域で、主に心理ケアや保健医療の分野において活動を続けていきます。

●「みんなで生きる」ー平和な世界に向けてー

JOCS は、公益社団法人として 4 年目を迎えます。社会の信頼に誠実に応える団体としての歩みはこれまでもこれからも変わりません。今年度は、使用済み切手運動 50 周年の年です。様々な機会を通じて、切手運動の意義と JOCS の働きを広く知っていただき、今後より一層活動が活性化する年としていきたいと思ひます。

また JOCS は、5 ヶ年計画 2013 の基本方針の二つ目の<使命>を「イエス・キリストの教えに従い、困難の中にある人々の健康といのちをまもり、人々と苦悩・喜びを分かち合う」としました。キリスト教会と地域・世界を繋ぎ、教会・学校・諸団体との協力関係を深めます。またキリスト教精神を礎としつつ同時に他宗教との対話を尊重し、保健医療協力を通して「みんなで生きる」平和な世界を目指します。

<重点課題と取り組み>

1. 貧しくされ、虐げられ、差別され、必要な助けから遠ざけられている人々と共に生きる。

(1) 5 ヶ年計画 2013 (※) に基づき、軸となる 3 つの事業 (ワーカー派遣・奨学金支援・協働プロジェクト) の事業間連携を進めつつ、人々の健康といのちをまもる活動を行う。また活動を通じて、キリスト教会との連携と他宗教との対話を進める。

※ JOCS は、前 5 ヶ年計画 (2006 年～) を計画名「今後 5 年間の方向性」としていました。

※ 重点対象：女性と子ども・障がい者・少数民族・HIV に影響を受けた人々・医療の過疎地にある人々

(2) 2014 年度定時社員総会にて、JOCS 「基本方針」の改定案を報告する。

2. 事業の充実を図る。

(1) 派遣ワーカー及び現地カウンターパートと、現地ニーズ・目標・計画や望ましい成果などに関する情報を十分に協議・共有し、ワーカー派遣を行う。

(2) 奨学生支援によって、現地の保健医療従事者の育成と能力強化を通じた保健医療

2. 2014 年度計画

の向上を図る。また事業の充実のために現地モニタリングやフォローアップを強化する。

(3) Project “LITTLE”※（協働プロジェクト）を推進する。

※ “Living together with the People”

- バングラデシュでの学校保健教育（5 年目／現地協力団体：BDP）を実施する。
- タンザニアでの診療統計分析能力強化プロジェクト（現地協力団体：タボラ大司教区保健事務所／2 年目）を支援する。
- カンボジアでの新規協働プロジェクト（保健教育を想定）のための調査を行い、事業を開始する。

(4) 日本の子どもたちが途上国の現状や「みんなで生きる」ことの大切さを理解する機会を提供する。

(5) 使用済み切手運動 50 周年関連事業を通して、切手運動の活性化と支援者・協力者拡大を図る。

3. 組織の活性化に努める。

(1) 5 ヶ年計画 2013 は、大きく 2 つの領域すなわち「海外事業部で実施すべきこと」と「マーケティング部※で実施すべきこと」に分けており、事業推進と実施していくための組織体制を整える。

※JOCS 事務局は、2014 年度よりマーケティング部を新設する。

(2) 広報及びファンドレイジングの充実のために事務局の能力強化を行い、会員増強・寄付拡大を進める。

(3) 日本キリスト者医科連盟（JCMA）、並びに教会、キリスト教学校・諸団体との連携を深める。

4. 東日本大震災の被災者支援を継続する。

(1) 釜石では仮設住宅や孤立集落の被災者の心理・保健ケアや支援者のケアを、いわきでは仮設住宅での健康相談を継続する。

パートナー団体：

特定非営利活動法人カリタス釜石（釜石）、いわき市社会福祉協議会（いわき）

(2) 福島第一原発事故の放射能の影響下にある福島の児童養護施設の子どもたちの健康を守るための支援を継続する。

パートナー団体：

特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

3. 海外諸活動

[3-1] 海外派遣

(1) バングラデシュ・ワーカー 山内章子 (理学療法士)

派遣先：マイメンシン テゼ共同体

主たる活動地は以下の4カ所である。

- 1) PCC (Protibondhi Community Centre) (マイメンシン県)
 - ・脳性まひ児のデイケアの質の向上とモニタリング。メールによるドナーとの連携
 - ・理学療法技術者の教育 (筋・骨の解剖学の終了)
 - ・口唇口蓋裂プログラムの定着化
 - ・ストロークモヒラクラブ (片麻痺女性クラブ) の立て直し
 - ・女性クラブ (障がい女性の集まり) の PCC における立場と役割の明確化
- 2) Kailakuri Clinic (タンガイル県)
 - ・理学療法の提供の継続
 - ・昨年 11 月に選出された理学療法専任者の理学療法基礎教育の開始と基本実技の習得
- 3) Disabled Centre (ディナジプール県 Dhanjuri mission 内)
 - ・スタッフ 3 名、及びカリタスのフィールドワーカーを包括したトレーニングの継続
 - ・フィールドワーカーの自立 (文書作成方法、フィールドにおけるアドバイスの内容の向上)
 - ・ダンジュリミッションから発信可能な障がい者プログラムの模索
- 4) Butahara mission (ラッシャヒ県)
 - ・責任者 (神父) に障がい者のためのプログラムの重要性の理解の促進 (訪問の頻度も上げる)
 - ・障がい者のためのスペースをミッション内に確保
 - ・女性障がい者のためのプログラムの開始

上記 4 カ所の活動以外には、以下の活動を行う

- 5) カリバリ・プロティボンディ・コラン・ショミティ
 - ・他の NGO へのハンドオーバー
- 6) その他
 - ・ビリシリのフィールドワーカーのフォローアップ (ドナーがいないためボランティア状態にある) と今後の方向性の確認
 - ・ジョルチョットラのデイケアのモニタリング (ドナーが PCC のデイケアと同じため要望があった)

3. 海外諸活動

(2) バングラデシュ・ワーカー 岩本直美 (看護師)

派遣先：テゼ共同体 (ラルシュ マイメンシン・コミュニティ)

1) 新しい支援体制の模索

ブラザー・フランクより託された多くの働きを継続していくために、テゼ・コミュニティや関連団体やグループと、新たな協力協働のあり方を模索していくことが求められる。バングラデシュ国内で、ラルシュの霊性と生き方に共鳴してくださる方々をさらに求める努力が必要である。

2) 理事会の強化

理事は現在 6 名であるが、理事会の質を高めその働きを強化するために、次年度内に更に 2~3 名の増員が必要である。ラルシュマイメンシンは、2017 年の国際ラルシュ連盟の総会で、終生メンバーとして承認を受けることを見込んでおり、そのためにも、理事会の強化は不可欠である。

3) コミュニティの覚え書き中間評価

ラルシュマイメンシンの 5 年の覚え書き (2016 年 2 月満了) の中間評価が、国際ラルシュ連盟担当者がファシリテーターとなって、ラルシュの理事会を含むコミュニティ全体で行われる。この中間評価は、今後のコミュニティの方向性を考える上において非常に重要である。

4) ラルシュの家の設計と資金調達

借りているラルシュの三つの家のうち、一つは 2015 年末でその契約を終了することが定まっており、購入した土地に適当な家屋を建築する必要がある。家屋のデザインを決め、それに必要な資金を 2014 年度内に得る必要がある。

5) 第二のラルシュ創りに向けての模索

バングラデシュ国内に第二のラルシュを創ることは、コミュニティの長期的展望の一つである。コミュニティメンバーたちの成長の機会と場を生み出すことも、理由の一つである。コミュニティ覚え書きの中間評価の際に、さらに具体的に検討する。

(3) パキスタン・ワーカー 青木盛 (医師)

派遣先：聖ラファエル病院 (St. Raphael's Hospital)

1) St. Raphael's Hospital (聖ラファエル病院) での業務

①外来

- ・小児科を担当。
- ・月曜日から土曜日の診療を継続。その他時間外の診察。

②小児の入院

- ・診察、治療にあたる。
- ・小児患者の入院に対応できる設備や、児の観察の改善など図る。

③新生児室

- ・診察、治療にあたる。
- ・9月末で任期終了の予定であり、業務の引き継ぎを行っていく。

2) 教育

- ・助産師学校学生への講義
「新生児の蘇生法」
「新生児の代表的疾患について」
「新生児ケアの留意点」など

3) 奨学金

- ・新規申請者の支援

(4) タンザニア・ワーカー 弓野綾 (医師)

派遣先：タボラ大司教区保健事務所、イプリ・ヘルスセンター

2015年度より派遣予定のワーカー内定者弓野綾氏の事務局研修を行う予定にしている。

[3-2] 短期ワーカー派遣

バングラデシュ、タンザニア、カンボジアなどでのニーズ調査を継続しつつ、より効果的な短期ワーカーの派遣の在り方をこれまでの実績から学び、新制度の構築を進める。

3. 海外諸活動

[3-3] 研修生・奨学金支援

2014年度は、インドネシア 12名、ネパール 14名、バングラデシュ 3名、インド 3名、ウガンダ 16名、タンザニア 10名の6カ国合計 58名を支援（詳細は2014年度研修生一覧（9～12ページ）を参照）のほか、2014年度に承認する奨学生（2014年9月頃選考・承認予定）を支援する。

一覧表注

*職業は、奨学金申請時点のもの

*ICAHS-Indonesia Christian Association for Health Services

（インドネシアキリスト教保健サービス協会）

*HDCS-Human Development and Community Services（ネパールのキリスト教系 NGO）

*UMN-United Mission to Nepal（ネパール合同ミッション-ネパールで活動するキリスト教系国際 NGO）

*LMN-The Leprosy Mission Nepal

（ネパールでハンセン病患者のために活動するキリスト教系国際 NGO）

*UPMB-Uganda Protestant Medical Bureau（ウガンダプロテスタント医療連盟）

インドネシア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Aprilin Poakalose	女	30	看護師	GKST	STIFA Pelita Mas, Palu	薬学	2011年6月 ~ 2015年8月
Mr. Frits Lexi Meincker Motjai	男	25	学生	GKST	SAM Ratulangi University	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Ms. Kristin Natalia Puahadi	女	21	事務	GKST	STIK, Indonesia Jaya Palu	栄養学	2013年9月 ~ 2016年9月
Mr. Mardianus Tado'u	男	27	薬局スタッフ	GKST	Samratulangi University, Manado	医学	2007年7月 ~ 2014年6月
Mr. Panca D. Dese	男	46	看護主任	GKST	STIK Central Jaya Palu	看護学修士	2011年9月 ~ 2014年9月
Ms. Veronika Uktulsea	女	25	看護師	GKST	Stikes Husada Mandiri Poso	助産学	2014年7月 ~ 2017年7月
Ms. Yuliana Najaya	女	27	看護師	GKST	Stikes Husada Mandiri, Poso	助産学	2011年6月 ~ 2014年9月
Ms. Ariane Englin Repi	女	40	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Ervina Annita Lontaan	女	39	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Mr. Jappy Roby Waladow	男	41	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Menny Lolowang	女	33	看護師	GMIM Kalooran Amurang Hospital	Bethesda Nursing Academy	看護学	2012年8月 ~ 2015年7月
Ms. Derdelina Baud	女	23	看護師	ICHAS-Bethesda Hospital	Tarumanagara, Jakarta	医学	2013年1月 ~ 2018年1月

ネパール

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Jagannath Maharjan	男	42	理学療法士 助手	Anandaban Hospital	Kathmandu University, School of Medical Science	理学療法	2010年7月 ~ 2015年1月
Ms. Lila Kumari Khadka	女	26	看護師	Anandaban Hospital	Nagarik College of Health Science	看護学修士	2012年12月 ~ 2015年10月
Mr. Aaron Subba	男	22	無職	HDCS	Asian College of Medical Science & Technology P. LTD	臨床検査	2012年12月 ~ 2015年12月

3. 海外諸活動

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Bhupendra Raj Giri	男	32	村落保健員	HDCS Chaurjahari Hospital	College of Allied Health Science	ヘルスケアマネージャーメン ト	2013年7月 ～ 2016年7月
Mr. Chandra Giri	男	43	薬局スタッフ	HDCS Chaurjahari Hospital	Kaipal Health Institution	薬学	2011年9月 ～ 2014年9月
Mr. Ghurka Bahadur Budhathoki	男	34	外来主任	HDCS Chaurjahari Hospital	Nepal Commerce Campus, New Baneswor Kathmandu College	経営学	2013年8月 ～ 2016年8月
Dr. Kalebu Kumar Budha	男	30	医師	HDCS Chaurjahari Hospital	National Academy of Medical Sciences	小児医学	2011年9月 ～ 2014年9月
Mr. Kapil Presad Jaishi	男	41	事務	HDCS Chaurjahari Hospital	National Open College	公衆衛生	2011年11月 ～ 2014年11月
Mr. Rudra Bir Budha	男	36	検査技師助手	HDCS Chaurjahari Hospital	College of Allied Health Science	臨床検査	2013年7月 ～ 2016年7月
Ms. Roshani Agrawal Khatri	女	36	看護講師助手	Lalitpur Nursing Campus	Faran College of Nursing, Bangalore, India	看護学修士	2013年6月 ～ 2015年6月
Ms. Vivechana Shakya	女	36	教師	Lalitpur Nursing Campus	Faran College of Nursing, Bangalore, India	小児看護修士	2012年7月 ～ 2014年7月
Ms. Ester Parajuli Kharel	女	36	看護講師助手	Tansen Nursing School	Sanjeevani College of Medical Science	看護学	2013年1月 ～ 2016年1月
Ms. Sita Gaire Bashyal	女	29	看護師	United Mission Hospital, Tansen	B & B Medical Institute	看護学修士	2013年3月 ～ 2016年3月
Mr. Tilak Raj Khanal	男	44	検査技師	United Mission Hospital, Tansen	Chitwan School of Medical Science	医用画像工学	2012年9月 ～ 2016年8月

バンブラダシユ

Ms. Barua Priyanka	女	20	無職	Mahamuni Bidhaba	Christian Hospital Chandraghona	看護・助産学	2012年1月 ～ 2015年7月
Ms. Tirkey Shishilia	女	19	無職	PIME Sisters	Holy Family Red Crescent Medical Hospital	看護・助産学	2013年2月 ～ 2016年2月
Mr. Hembrom Isahak	男	21	無職	St. Vincent Hospital	Bangladesh Health Professions Institute (BHPI) CRP	理学療法	2012年1月 ～ 2015年1月

インド

Mr. David Livingstone J.	男	21	無職	Christian Fellowship Hospital	C.S.I. College of Dental Science and Research	歯学	2009年9月 ～ 2015年2月
Mr. Joshua Paul	男	21	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College, Vellore	臨床検査学	2010年7月 ～ 2014年7月

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Ms. Karthika N.	女	20	学生	Christian Fellowship Hospital	Christian Medical College	医学	2011年7月 ~ 2016年1月
ウガンダ							
Mr. Labu Albert	男	28	准看護師	UPMB Akisyon A Yesu	International Health Sciences University	臨床医学・公衆衛生	2012年8月 ~ 2015年8月
Mr. Ndikumwami Hubert Nkabura	男	22	看護師	UPMB Bwindi Community Hospital	Kampala International University	臨床医学・公衆衛生	2013年8月 ~ 2016年8月
Ms. Nabirye Loy	女	37	医師長	UPMB Kabarole Hospital COU	Makerere University College of Health Sciences School of Medicine	小児医学・小児看護	2013年8月 ~ 2016年8月
Mr. Obaku Jackson	男	28	ヘルスセンター責任者	UPMB Kei Health Centre, Here is life	Kampala International University	医学	2012年9月 ~ 2018年6月
Mr. Bukenya Stephen Ojwang	男	26	学生	UPMB Kitgum Diocese	Gulu University	医学	2012年9月 ~ 2014年9月
Ms. Bazira Nakato Rebecca	女	37	准看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2013年5月 ~ 2015年5月
Ms. Jane Nabaggala	女	39	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	International Health Sciences University (IHSU)	看護学	2013年9月 ~ 2016年9月
Mr. Mabira Kenneth	男	39	看護師	UPMB Kiwoko Hospital	Mulago School of Paramedics	麻酔学	2012年5月 ~ 2014年11月
Mr. Okiring Joseph	男	25	暗室助手	UPMB Kumi Hospital	Kampala International University	臨床医学・公衆衛生	2013年8月 ~ 2016年8月
Ms. Nanyanzi Eunice Rebecca	女	33	助産師	UPMB Mengo Hospital	Mulago Paramedical School	麻酔学	2012年8月 ~ 2014年8月
Ms. Olivia Naggavi	女	31	准助産師	UPMB Mengo Hospital	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2013年11月 ~ 2015年5月
Ms. Nampewo Lydia	女	34	准助産師	UPMB Mengo School of Nursing	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2013年5月 ~ 2014年11月
Ms. Nantongo Resty	女	32	看護師	UPMB Mengo School of Nursing	International Health Sciences University	看護学	2012年8月 ~ 2015年8月
Mr. Tumusime Christopher	男	44	准看護師	UPMB Ruharo Mission Hospital Eye Centre	Masaka School of Comprehensive Nursing	看護学	2013年5月 ~ 2014年11月
Mr. Atibuni Daniel	男	26	ヘルスセンター責任者	UPMB St. Luke Katiyi Health Centre III	Gulu Institute of Health Sciences	臨床医学・公衆衛生	2012年8月 ~ 2015年8月
Mr. Mugumya Gilbert Tadeus	男	31	検査技師	UPMB Wentz Medical Center, International Hospital Kampala	International Health Sciences University (IHSU)	臨床検査	2012年8月 ~ 2014年8月

3. 海外諸活動

タンザニア

名前	性別	年齢	職業	所属団体名	研修機関	研修内容	研修期間
Mr. Paschal Peter Mashimi	男	25	検査技師助手	TAHO Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
Ms. Rozalia Constantino Buholo	女	24	看護助手	TAHO Igoko Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
Mr. Damas Joseph Jacob	男	21	看護助手	TAHO Ipuli Health Centre	Kolandoto College of Health Science	看護・助産学	2012年9月 ～ 2014年9月
Mr. Magesi Vincent Maswi	男	29	医師補	TAHO Ipuli Health Centre	International Medical and Technological University	医学	2012年8月 ～ 2017年8月
Mr. Marcelino Simon Mnimbo	男	20	看護助手	TAHO Ipuli Health Centre	Kolandoto College of Health Science	臨床検査	2012年10月 ～ 2014年10月
Mrs. Therezia Joseph Migezo	女	41	看護助手	TAHO Ipuli Health Centre	Nkinga School of Nursing	看護学	2011年8月 ～ 2014年8月
Ms. Hadija Yassin Mrisho	女	23	看護助手	TAHO Kipalapala Dispensary	Kolandoto School of Nursing	看護・助産学	2011年8月 ～ 2014年8月
Ms. Sophia Charles Malale	女	31	看護助手	TAHO Lububu Dispensary	Kabanga School of Nursing	看護・助産学	2011年9月 ～ 2014年9月
Ms. Maria Simon Mnimbo	女	25	看護助手	TAHO Ndala Hospital	Kolandoto School of Nursing	看護・助産学	2010年8月 ～ 2014年8月
Ms. Glory Anistarick Malya	女	20	看護助手	TAHO Sikonge Dispensary	Kolandoto College of Health Science	臨床検査	2012年9月 ～ 2014年9月

[3-4] 協働プロジェクト（プロジェクト・りとり）

協働プロジェクトとは地域の保健医療に関する問題解決のために JOCS が現地の相手団体とともに活動を実施する事業である。計画段階では双方が知恵を出し合い、実施段階では主に相手団体が活動を進め、JOCS は資金的、技術的支援を必要に応じて行い、モニタリングと評価はまた協働で実施することで進められる。

(1) BDP 学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）

プロジェクト期間：2010年4月～2015年3月（本年は5年目）

相手団体：BDP（Basic Development Partners）

2014年度は保健教育の授業、救急箱の補充管理、トイレ・井戸の維持管理、環境整備のための啓発活動は継続実施し、担当教員にフォローアップトレーニングを2回、思春期女子への講習を1回、生徒たちの母親向け講習会を2回、生徒の身体測定を2回実施する。またヘルスフェスティバルはゴミゼロデー（5月30日）と世界手洗いデー（10月15日）に実施する。終了時評価は2015年2月頃にBDPとJOCSとで実施する予定である。

(2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト（タンザニア）

プロジェクト期間：2013年9月～2016年8月

相手団体：TAHO（Tabora Archdioces Health Office）

2014年度、TAHOは6、9、12月にスーパービジョンを行い、10月にセミナーを行う予定である。夏頃、JOCSで事業のモニタリングを行い、年度末にTAHOと共同で中間評価を行う。これらのモニタリングや中間評価の結果を受け、指導方法の改定や新しいエクセル記入表の使い方の指導などを行っていく予定である。

(3) 新規（カンボジア）

現地調査を踏まえてカンボジアの新規協働プロジェクトを開始する。

有力候補としてカンボジア北西部のバタンバン司教区で活動している Ursuline of Roman Union という修道会が計画している司教区運営のヘルスセンターと協力関係にある16の小学校のうち4校をモデル校とした保健教育活動を検討している。

4. 国内諸活動

【4-1】 国内活動全般

今年度も昨年に引き続き、ワークショップの開催、地区 JOCS 活動のサポートなど国内活動の充実を図る。支援者、その他 JOCS の活動を知らない方々へ向けて活動紹介に努める。

(1) 子どもを対象にした活動

青山学院初等部のファミリーフェアへの出店、及びワークショップを開催する。このワークショップを継続して実施することができるよう、実施できる学校を新たに開拓する。

(2) ワーカー活動報告会

青木盛ワーカーが第2期を終えて帰国し、10月から12月まで、また山内章子ワーカーが第2期を終えて帰国し、1月から3月まで各地で活動報告会を行う予定である。

(3) 地区 JOCS 活動支援

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・四国高知各地区において、地域のイベント出店やチャリティコンサートなどの催し物が開催される予定である。

(4) 講師派遣プログラム

ワーカー報告会の時期以外にも、東京、大阪近郊以外の道府県からの講師派遣の要望にも応えられるよう、体制を整えていく。

(5) 事務局見学受入

東京事務局・関西事務局で JOCS 活動内容や、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

(6) 視聴覚資料

希望者に DVD、写真パネルの貸出しを行う。

(7) 活動紹介ツアー

10月または11月にワーカー活動地（バングラデシュ・マイメンシン）を訪問する。

(8) 被災地訪問（仙台・石巻）

日本キリスト教団東北教区被災者支援センターの活動地を訪問する。

(9) チャリティー映画会

JOCS 活動紹介と募金を目的としたチャリティー映画会を開催する。

【4-2】 ワーカー育成活動全般

今年度も、海外保健医療協力に関心のある人に、学ぶ機会を提供すること、その参加者の中から、将来的にワーカーや JOCS の支援者となる人材とつながりをもつことを目的として、育成事業を以下のとおり開催する。

・海外保健医療勉強会：「母子保健」をテーマとし、外部から講師を招いて年に5～6回開

催する。対象をより明確にするために、入門やアドバンスと勉強会の講義内容を区別する。また、青木盛ワーカーの報告会を勉強会の中で開催する。

- ・海外保健医療協力セミナー：フィールドセミナーとし、横浜寿地区の越冬プログラムを、昨年に引き続き実施する。
- ・読書カフェ
テーマに沿った本を読み、参加者が意見交換をする企画を、今年度も引き続き実施する予定である。
- ・スタディツアー：2014年度は実施なし。

[4-3] 東日本大震災被災者支援

東日本大震災から約3年が過ぎたが、被災地では仮設住宅から復興災害住宅への移住の立ち遅れや被災者の孤立や高齢化が課題である。JOCSは2014年度も引き続き、地元団体の活動に協力する形で以下の支援を行う。

(1) 岩手県釜石市（協力先：特定非営利活動法人カリタス釜石）

①看護チーム派遣（ほぼ3ヵ月ごとの予定）、及び看護師派遣（ほぼ毎月）

看護チームを定期的に派遣し、仮設住宅や孤立集落の在宅被災者のための訪問ケアやカリタス釜石の心のケア活動へサポートを行う。今年度も、これまで通り約1週間ずつ年4回派遣予定である。

また同時に看護師1名をほぼ毎月派遣し、カリタス釜石の支援に協力を行う。

②カウンセラー派遣（毎月）

カウンセラー1名を派遣し、教会および仮設住宅での傾聴活動や交流に協力すると共に、支援者のケア・カウンセリングやスタッフ・ボランティア向けの研修協力を行う。

(2) 福島県いわき市

いわき市社会福祉協議会の要請により、いわき市仮設住宅集会所（いわき市中央台高久第一集会所）に月2回医師及び保健師を派遣し、健康相談を実施する。

(3) 福島県内児童養護施設

「特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」と連携して活動する。福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うための活動を支援する。

個人被ばく線量測定サービス（クイクセルバッチ）着用支援

福島市の「青葉学園」及び「福島愛育園」で、入所している子ども及び職員の着用を支援する。

超音波診断装置による甲状腺検査支援

1年毎に甲状腺検査を行うことにより、甲状腺の異変の早期発見・早期治療に役立てることを目的に、児童養護施設に医療従事者を派遣し、検査を実施する。

事務所職員人件費支援

4. 国内諸活動

「福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」の事務所体制強化のため、事務の補佐を行う非常勤職員人件費の一部を支援する。

【4-4】 広報全般

今年度も広報活動の充実を図ることによって JOCS の支援者への説明責任を果たす。同時に会員・寄付者の増強に努める。具体的な活動は以下のとおり。

(1) 「みんなで生きる」の企画・編集

- ・隔月の偶数月に発行する。16 ページを基本とし、掲載内容が多い場合には 20 ページとする。ただし、6・7 月号は、別途作成される年次報告書と同時に送付するため、4 ページ構成の特別号とする。
- ・活動を分かりやすく伝える。
- ・JOCS と共に活動する人々の声をできるかぎり紹介する。
- ・読者のアンケートや質問を大切にして読者との交流を図り、誌面作りに生かす。
- ・特に子ども向け号・ページを充実させる。

(2) 年次報告書

支援者向けの年次報告書を、前年度のアンケートの中からの意見を参考に改善を加え作成する。会報誌「みんなで生きる」6・7 月号と夏期募金の趣意書と合わせて、会員・寄付者に送付する。

(3) ホームページ

新しいホームページについて、検索利用において有用なサイトとしていくための検索エンジン対策を引き続き行う。そのために新しいコンテンツの作成を予定している。具体的には以下のとおり計画している。

- ・切手運動のページのリニューアルと共に切手販売のページを追加する。
- ・切手運動 50 周年のためのページを新設する。
- ・宣伝とイベント準備の進行など報告する。
- ・ワーカー紹介ページのリニューアル、動画による紹介など。

(4) 「JOCS フォーラム」の発行

今年度は、宮川真一ワーカー、倉辻忠俊ワーカー、乾真理子短期ワーカー、宮尾陽一短期ワーカー、石本馨短期ワーカーの各報告書、および海外保健医療勉強会の講演原稿も掲載する。総会の資料と共に送付する。

(5) ボランティアテックの活動

9 月に予定している使用済み切手運動 50 周年記念イベントに協力する（広報・撮影・設営など）。年に 2 回ミーティングを開催し、広報資料の整理、充実に努める。

(6) ブランディング

JOCS のミッションと活動内容を社会に適切に伝え、社会から認知と理解を得て、協力者を募るために、ブランディングの手法を取り入れ、活動を象徴する要素の統一化を図る。

(7) 雑誌広告

キリスト教雑誌「百万人の福音」・「信徒の友」に、通常 1/3 縦サイズ、1月号のみ全頁の広告を掲載する。また広告だけでなく、JOCS の活動などを記事として取りあげてもらえるよう働きかける。

[4-5] 募金

2014 年度の募金目標額は 1 億 675 万円とする。

ワーカー報告会や各地でのイベント、広報などを通して、一般寄付の他、奨学金指定のための寄付を募るために、引き続き活動をアピールしていく。

夏期募金は、昨年同様、年次報告書と、「みんなで生きる」6・7月号の簡易版に募金趣意書（払込用紙込み）を封入し、冬期募金では、詳細を記載した募金趣意書と払込用紙を封書にて発送する。寄付者の手間が少しでも省けるよう、同封物に、銀行口座の自動引き落とし申し込みフォームを含めるかどうかを検討する。いずれも送付先は会員やご寄付で協力をいただいている個人、教会や学校、保育園、幼稚園、友の会など。冬期は、以上に加え、切手協力者にも募金のお願いを発送する。

[4-6] 使用済み切手運動

切手収集に加えて、外国コインと書き損じはがきも収集強化に努めていく。

2014 年度は、切手運動開始 50 周年記念の年であり、イベントを 9 月に行う。

このイベントに先立ち、使用済み切手運動ポスターコンクールのデザイン公募と作成、切手 50 周年 DVD の作成を予定している。

2014 年 4 月 25 日（金）～4 月 27 日（日）

スタンプショウ（産業貿易センター〔浜松町〕）

9 月 13 日（土）

東京 切手運動 50 周年記念イベント（全電通労働会館〔御茶ノ水〕）

プログラム：切手にまつわる話、ゴスペルコンサート、

切手運動感謝状贈呈式など

9 月 20 日（土）

関西 切手運動 50 周年記念イベント（大阪市中央公会堂〔中之島〕）

出演者：谷川俊太郎氏（詩人・会員）

末盛千枝子氏（元すえもりブックス代表）

9 月（日程未定）高知スタンプショウ

5. 運営会議

[4-7] JOCS 関西バザー

今年度は 20 回目の記念のバザーとなる。5 月 10 日（土）に大阪聖パウロ教会にて開催予定。今回も「切手を持ってバザーに行こう」をキャッチフレーズに、例年の物品販売、食べ物コーナーの他、記念イベントも計画している。

5. 運営会議

[5-1] 社員総会

第 53 回定時社員総会を、中野サンプラザにて、2014 年 6 月 7 日（土）に開催する。

[5-2] 理事会

今期（2014 年度～2015 年度）の理事候補者及び監事候補者は次のとおりである。2014 年 6 月 7 日（土）の社員総会にて選出予定である。

理事候補者：小島莊明、大友宣、植松功、大江浩（事務局長）、畑野研太郎、
榛木恵子、東岡牧、平本実、眞鍋まり、森田隆（海外事業部長）
監事候補者：辻本嘉助、渡部芳彦

[5-3] 委員会

<関西地区活動委員会>

- ①委員会は 2 ヶ月に一度の頻度で、JOCS 関西事務局にて開催予定。
- ②バザーは 5 月 10 日（土）大阪聖パウロ教会にて開催予定。今回は 20 回目の記念のバザーとなる。
- ③使用済み切手運動 50 周年記念イベントとして、「谷川俊太郎さんと末盛千枝子さんの対談」を 9 月 20 日（土）に大阪市中央公会堂大集会室で開催を予定している。集客だけでなく、会員増強や切手運動がより活発な活動に繋がるよう、企画・準備に努める。

<研修生・奨学金委員会>

①奨学金支給対象者の決定

昨年に引き続き、選考は年 1 回（夏のみ）行う。

JOCS 海外研修生奨学金規定と JOCS の 5 ヶ年計画 2013 に則り、今後も地域の保健医療向上のために草の根レベルで尽力すると思われる奨学生を優先し、現地のニーズに適切に応えられるような選考を行う。

②フォローアップ

今年度はタンザニア、インドネシア、バングラデシュ、ネパールを訪問し、奨学金支給者のインタビューや奨学生の所属団体との話し合いを行う。それにより奨学金の適正な使用とその効果について評価する。同時に、所属団体の方向性やその地域の特徴などを見ることにより、今後の JOCS の重点課題を探る。

③奨学金活動の広報

引き続き会報、募金趣意書、ホームページなどで、より積極的に奨学金活動を支援者にアピールする。また、そのためのツールとして用いることができるよう、奨学生のレポートフォームの見直しなどを行う。

<財務委員会>

JOCS の財政状況は依然厳しい状況が続いている。収支を均衡にして財政を健全にすることが課題である。今後も、財務の立場から理事会、事務局に提言を行う。

事業の縮小によって収支のバランスを保っていくことは、好ましい状況とは言えない。事業拡大の基盤である収入を増やし、かつアジアやアフリカから求められる活動を拡大することによって、収支を均衡にしていきたい。

財務の透明性、健全性は、公益法人に強く求められていることである。今後も支援者への説明責任を果たし、行政庁への報告を正確に行っていくべく、体制の維持向上に努めていく。

<ワーカー育成委員会>

JOCS を知ってもらうため、さらに JOCS へのコミットメントにつながるように、そしてワーカー志願者の発掘を視野にいれながら、海外保健医療勉強会、フィールドセミナー、JOCS 読書カフェなどを企画・実施する。新たな宣伝方法の開拓にも力を入れる。

- ・海外保健医療勉強会：今年度は「母子保健」をテーマに掲げ、新たな会場での企画も含めながらシリーズで開催する。
- ・フィールドセミナー：前年に続いて、年末に横浜の寿地区を会場に開催する。
- ・JOCS 読書カフェ：新たなテキストを取り入れながら、国際保健医療協力に関する学びの機会を多くの人に提供する。

各プログラムについては、[4-2] ワーカー育成活動全般（14 ページ）を参照。

<ワーカー派遣委員会>

- ・ワーカー採用ガイドラインにおける「手順」について協議、検討し明文化して理事会に提出する。
- ・ワーカー採用における「基準」について、他団体の採用基準なども参考にして、ガイドラインを作成する。
- ・現存のワーカーについては、「JOCS がワーカーに期待していること（目標）は何か」を文章化して共有できるように理事会に依頼する。

5. 運営会議

- ・ワーカー育成委員会と協力として、ワーカー志望者説明会などの定期的な開催を準備する。
- ・ワーカー志望者の面接を行い、次なるステップへの助言を行う。
- ・派遣先については、送付された派遣要請書を検討するだけでなく、ワーカー予定者とのマッチングについて充分検討を行う。

今後、派遣先のプロジェクトについては、JOCSからのコミットメントを明確にし、評価目標を定め、共有ができるようにする。

[5-4] 評価

(1) 活動終了時レビュー

以下のワーカーの現任期終了に先立ち、活動終了前レビューを行う予定である。

- ・青木盛ワーカー（第二期） 2014年9月終了予定
- ・山内章子ワーカー（第二期） 2015年1月終了予定
- ・岩本直美ワーカー（第五期） 2015年5月終了予定

(2) ワーカー自記式アンケート

ワーカー派遣後一年目と二年目終了時に行う自記式アンケートを次のとおり行う。

- ・岩本直美ワーカー 2年目 2014年5月

6. 事務局

＜事務局長（総主事改め）大江 浩＞

2014 年度、事務局の主な動きは下記のとおりである。

第 1 に、5 カ年計画 2013（2013－17 年度）アクションプランの推進のため、新たな事務局体制（海外事業部・マーケティング部・管理部の 3 つの部門を設置し、新しい役職名を採用）にて臨む。また 5 カ年計画 2013 実施のための各種ガイドライン等の整備を随時行っていく。加えて、JOCS「基本方針」の改定版（2014 年度定時社員総会にて報告）に基づいて諸規程を整備し、それに則って諸事業を実施していく。

第 2 に、海外事業部長のもとに、海外諸事業を遂行する。ワーカーのサポートに注力すると同時に、奨学金事業の充実のためモニタリングの海外出張や、協働プロジェクト（3 つの事業）の運営に必要な研修参加や海外出張の機会を増やす。

第 3 に、マーケティング部長（管理部長兼務）のもとに、国内諸事業の実施と共に広報やファンドレイジングの強化、それに伴う事務局の能力向上を図る。また東京事務局では、2013 年度に引き続き、国内活動を中心に通年で大学生インターンを受け入れる。

第 4 に、使用済み切手運動 50 周年の各種事業（東西 2 カ所での記念イベントは 9 月）を通して、切手運動の更なる普及・発展に努める。

第 5 に、事業・組織・財政、各領域での適正な運営に努める。また、国際協力 NGO センター(JANIC)のアカウントビリティセルフチェックテスト 2012（NGO の自己診断制度）を実施する。

第 6 に、東日本大震災の被災者支援は、岩手県釜石市・福島県で継続する。東京事務局が引き続き地元団体をサポートする形で連絡調整役を務める。

最後に、皆様のお支えに深く感謝しつつ、より良い事業運営にベストを尽くしたい。

＜スタッフ＞

事務局長 大江浩

海外事業部長 森田隆

マーケティング部長・管理部長 名取智子

東京事務局 大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、服部由起、森田真実子、山中信

関西事務局 洪江理香、河野智恵